

安全データシート

1. 製品及び会社情報

整理番号：131233

改正：2023年8月1日

製品名	1000 µg/mL ス [®] 標準液
会社名	西進商事株式会社
住所	〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町1-4-4
担当部門	本社営業一課 TEL:078-303-3810 FAX: 078-303-3822
緊急連絡先	本社営業一課 TEL:078-303-3810
製品番号	PLSN5-2M、PLSN5-2Y、PLSN5-2T、PLSN5-2X
用途	プラスマ分析用の標準液

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性

金属腐食性物質：分類できない

健康に対する有害性

急性毒性 経口：分類できない

経皮：情報なし

吸入（粉塵、ミスト）：分類できない

皮膚刺激/腐食性：区分2

眼損傷性/眼刺激性：区分1

呼吸器感作性：分類できない

皮膚感作性：分類できない

特定標的臓器/全身毒性（単回暴露）：区分3（呼吸器）

特定標的臓器/全身毒性（反復暴露）：分類できない

環境に対する有害性

水性環境有害性（急性）：分類できない

水性環境有害性（慢性）：分類できない

【GHSラベル要素】

シンボル



注意喚起語



危険

危険有害性情報

金属腐食のおそれ

重篤な皮膚・眼の損傷

飲み込む・吸引すると有害

呼吸器への刺激のおそれ

注意書き：

【安全対策】

- ガス/ミスト/スプレーを吸入しないこと。
- 取扱後は手をよく洗うこと。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

- 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- 皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 暴露または暴露の懸念がある場合は医師の診断/手当を受けること。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉して涼しい換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物
化学名または一般名 1000 μg/mL スス[®]標準液

成分名	化審法番号	安衛法番号	CAS番号	含有量(%)
塩酸	(1)-215	公表	7647-01-0	20%
塩化スズ(II) (SnCl ₂)	(1)-260	公表	7772-99-8	0.16% (Snとして0.1%)
水	—	公表	7732-18-5	約80%

危険有害性成分：劇物 塩化水素（10%を超える濃度）含有製剤

労働安全衛生法 名称等を表示すべき有害物： 塩化水素

労働安全衛生法 名称等を通知すべき有害物： 塩化水素、すず及びその化合物

4. 応急措置

- 吸入した場合** 空気の新鮮な場所へ移動し、きれいな水でよくうがいをする。必要であれば医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合** 汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を水又は微温湯で流しながら洗浄する。外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は、直ちに医師の診断を受ける。
- 目に入った場合** 直ちに清浄な水で最低15分間目を洗浄した後、眼科医の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合** 食べ物、飲み物を与えない。無理に吐かせない。速やかに医師の処置を受ける。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水噴霧、粉末消火薬剤、二酸化炭素
不適切な消火剤	情報なし。
火災時の特有の危険有害性	情報なし。
特有の消火方法	情報なし。
消火を行う者の保護	消火作業は可能な限り風上から行う。呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	作業の際には吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように必ず適切な保護具を着用する。風上から作業をして風下の人を回避させる。
環境に対する注意事項	大量の水で希釈する。汚染された排水等が適切に処理されずに環境に排出されないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	適切な中和剤を使用する。液体吸着剤（砂、珪藻土、酸結合剤、ユニバーサルバインダー、おがくず）をまいて、できるだけ掃きとり密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	取り扱う場合は局所排気内、または全体換気のある場所で取り扱う。エアロゾルの形成を防ぐ。
安全取扱い注意事項	漏れ、あふれ、飛散をしないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくする。
接触回避	吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
衛生対策	作業後は容器を密栓し、うがい手洗いを十分にする。
保管	
保管条件	通風のよい乾燥した冷暗所に施錠し保管する。
容器包装材料	遮光した気密容器

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	粉塵に作業者が暴露されないように、局所排気装置の設置または全体の換気を適切に行う。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄用の設備を設ける。		
管理濃度、許容濃度	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH
塩酸	未設定	5ppm 7.5mg/m ³ (塩化水素として)	2ppm (TWA) (塩化水素として)
塩化スズ ^(II)	未設定	未設定	2.0mg/m ³ (TWA) (Snとして)
保護具			
呼吸器の保護具：	保護マスク、自給式呼吸器（火災時）		
手の保護具：	保護手袋（不浸透性保護手袋）		
眼の保護具：	ゴーグル型保護眼鏡		
皮膚及び身体の保護具：	保護服（長袖作業衣）		

9. 物理的及び化学的性質

形状	液体
色	無色透明
臭い	刺激臭
pH	情報なし
融点	情報なし
沸点、初留点	100 °C
可燃性	情報なし
爆発範囲	情報なし
引火点	情報なし
自然発火温度	なし
分解温度	情報なし
動粘性	情報なし
蒸気圧	23 hPa(20 °C)
比重	1.0325 g/cm ³ (20 °C)
溶解度	完全に混和
n-オクタノール/水分配係数	情報なし
密度及び/又は相対密度	情報なし
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし。
化学的安定性	通常の条件下では安定。
危険有害反応性	危険有害反応性は知られていない。
避けるべき条件	高温、直射日光。
混色危険物質	アルカリ性物質、金属類。
危険有害な分解成分	塩化水素ガス、金属酸化物、窒素酸化物

11. 有害性情報

塩化水素について記載する。

急性毒性（経口）	ウサギ LD50=900mg/kg 塩化水素 LD50=2300 mg/kg 製品としてはデータ不足のため分類できない。
急性毒性（経皮）	データなし
急性毒性（吸入気体）	製品としてはデータ不足のため分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	ヒトに対して軽度から重度の刺激性、腐食性の記載がある。（区分2）
眼刺激性	眼の永続的な損傷や失明の恐れが記載されている。（区分1）
生殖細胞変異原性	分類できない
発癌性	IARCに癌原性の記載はない
標的臓器/全身毒性 （単回暴露）	ヒトで吸入暴露による呼吸器系に毒性が記載されている。（区分3）
標的臓器/全身毒性 （反復暴露）	ヒトで反復暴露による歯の損傷と慢性気管支炎の記載があるが、製品としてはデータ不足のため分類できない。

1 2. 環境影響情報

- 水性環境有害性（急性）：オミジツコ EC50=0.494mg/Lから有害性がある。
製品としてはデータ不足のため分類できない。
- 水性環境有害性（慢性）：データなし

1 3. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物** 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装** 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4. 輸送上の注意

- 国際規制** 国連番号：1789
品名：塩酸
国連分類：7.3（腐食性物質）
容器等級：II
- 国内規制** 陸上規制情報：該当しない。
海上輸送規定：船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報：航空法の規定に従う。
- 輸送の特定の安全対策及び条件** 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

1 5. 適用法令

- 化審法 該当せず
- 労働安全衛生法 名称等を表示すべき有害物 塩化水素0.2%以上
名称等を通知すべき有害物 塩化水素0.1%以上、すず及びその化合物0.1%以上
特定化学物質等予防規則 第3類物質（塩化水素）、腐食性液体（塩酸）
- 化学物質管理促進法 非該当
- 毒物及び劇物取締法 劇物 塩化水素含有製剤（10%超が該当）
- 麻薬及び向精神薬取締法 麻薬向精神薬原料 （塩化水素10%超が該当）
- 船舶安全法（危規則） 腐しよく性物質 塩化水素
- 海洋汚染防止法 施行令別表第1有害液体物質 Z類物質（塩酸）
- 航空法 腐食性物質（塩酸）
- 消防法 非該当

1 6. その他の情報

参考資料

- 1) 日本産業衛生学会（2015）許容濃度等の勧告（2015年度）
- 2) ACGIH (American Conference of Governmental Industrial Hygienists) (2015) TLVs and BEIs.
- 3) SPEX CertiPrep, LLC. SDS (2021年5月25日改正)
- 4) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHS分類結果データベース
- 5) 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター GHSモデルMSDS情報

改正履歴

2019年12月5日 SPEX CertiPrep, LLC SDS改正 (2019年2月22日)

2023年3月6日 SPEX CertiPrep, LLC SDS改正 (2021年5月25日改正分に対応)
労働安全衛生法、化管法PRTR制度改正などに対応

2023年8月1日 英語版と記述内容を統一

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の見取り方を対象としたものなので、特殊な見取り方の場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。